

その3 公共事業における計画デザイン・システム に関するワークショップ

去る平成15年5月27日(火)、東京都内の日本青年館において、基本課題の一つである「美しい国土の創造」の調査研究の一貫として、「美しい国土の創造」に関するワークショップ「公共事業におけるデザイン・システムのあり方 - 美しい国土の創造のために - 」を国土技術研究協議会の協賛のもと開催した。民間企業、大学、関係法人、官公庁等から約200名の参加を得てたいへん盛況であった。昨年、9月18日に行われた「美しい国土の創造に関するシンポジウム - 後世に伝えるべき美しい国土とは何か - 」が主として、美しい国土の創造の「規範」に係る課題を一般市民向けに取り上げたのに対し、今回は、美しいデザインを生み出す計画デザイン・システムは如何にあるべきか、現行のシステムは、どのような問題点を抱えているか、という「手法」に係る課題をより実務的に取り上げることとしたものである。

国総研所長の奥野晴彦所長の挨拶の後、第一部では、「美しい国土の創造」に関する調査研究を行っている国総研のワーキング・グループ・メンバーが事例発表を行った。まず、道路研究部橋梁研究室の廣松新研究官が「景観デザイン・システムの新たな取り組み」と題して、角館バイパス等の例を取り上げながら、東北地方整備局の景観アドバイザー制度、景観に配慮したプロポーザル方式について紹介した。また、環境研究部緑化生態研究室の小栗主任研究官が設計・施工管理一貫方式の例として、阿武隈川「水辺の楽校」について紹介した。さらに、高度情報科学研究センターの小林住宅情報システム研究官がHOPE計画、マスターアーキテクト方式等、建築、営繕、都市に係る計画デザイン・システムについて紹介した。最後に、空港研究部空港ターミナル研究室の上島が計画デザインシステムの特性と課題について紹介した。

第2部のパネル・ディスカッションではコーディネーターの篠原修東京大学教授の進行のもと斎藤潮東京工業大学教授、加藤源(株)日本都市総合研究所代表、三浦健也(株)長大・構造事業部事業部長、平尾壽雄国総研副所長の4人のパネリストに、景観デザインの計画デザイン・システムにおける問題点は何か、如何にあるべきかというテーマで御議論頂いた。

篠原教授からは、明治期以来の土木デザイン

の系譜についてご紹介頂いた。



加藤(株)日本都市総合研究所代表からは、マスターアーキテクト方式の例として、多様な事業からなる旭川の駅前再開発について紹介して頂いた。また、斎藤教授からは、新潟みなとトンネルの事例をもとに、委員会方式ではなく、事務所と協力しながらデザインする事例についてご紹介頂いた。三浦(株)長大・構造事業部事業部長からは、韓国のコンペ事情のご紹介があった。

次に、第1部と休憩時間の間に御記入頂いた計画デザイン・システムに係るアンケート結果をもとに、会場の方も交えて、質疑応答、議論を行った。例えば、アドバイザーでも、単なるデザインに対するアドバイスと、多様な事業のコーディネートを行う場合とでは役割が異なること、アドバイザーの選定が重要であること、委員会方式においては、その下にデザインのWGを作った方がよいこと、意欲と能力のある人間に責任を持たせればよい等の貴重な意見があった。なお、司会は、ワーキング・グループの河川研究部海岸研究室の福浜主任研究官が担当した。

ワークショップで頂いたこれら貴重な意見をもとに、今後の調査研究活動に活用することとしている。

